

坂城町埋蔵文化財調査報告書第9集

# 町内遺跡発掘調査報告書 1995

——平成7年度試掘調査報告書——

1996. 3

坂城町教育委員会

# 町内遺跡発掘調査報告書 1995

——平成7年度試掘調査報告書——

1996. 3

坂城町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成7年度の町内遺跡の試掘調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫及び県費の補助を得て町費で対応した。
- 3 調査の体制  
調査指導者 森嶋 稔（日本考古学協会員、長野県考古学会会長、千曲川水系古代文化研究所主幹）  
担 当 者 助川朋広、小平光一（以上、坂城町教育委員会学芸員）  
協 力 者 塩野入早苗、春原かずい、高木和子、中村久子、萩野れい子、宮尾美代子（以上、町臨時職員）  
五十嵐信男、窪田盛次、諏訪孝雄、島谷久、竹鼻茂（以上、㈱更埴広域シルバ一人材センター）
- 4 事務局の構成は以下のとおりである。  
教 育 長 西沢民雄  
社会教育課長 塩野入 猛  
文化財係長 小宮山久春  
文 化 財 係 助川朋広、小平光一、青木卓（嘱託職員）、瀬在孝子、天田澄子、塩野入早苗、春原かずい、高木和子、中村久子、萩野れい子、宮尾美代子（以上、臨時職員）
- 5 本書の執筆は、助川・小平が行い編集は助川が行った。
- 6 遺跡の調査位置図は、巻末に掲載した。
- 7 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 目 次

### 例 言

第I章 試掘調査	1
1 開敏遺跡Ⅲ	3
2 込山D遺跡	6
3 中之条遺跡群	9
4 村上氏館跡	13
1995年度町内遺跡発掘調査位置図	

# 第 I 章 試掘調査

## 1 開畝遺跡Ⅲ

所在地 坂城町大字中之条字  
開畝2301-1 他  
事業主体 坂城町土地開発公社  
事業名 宅地造成事業  
調査期間 平成7年4月3～5日  
面積 1418㎡(約256㎡)  
担当者 小平光一



道跡遺景 西より

### 遺跡の環境と経過

開畝遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高460m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇中央部に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、調査地の南には中世の開畝製鉄遺跡が隣接し、製鉄遺構の存在も予想された。今回、宅地造成事業が計画さ

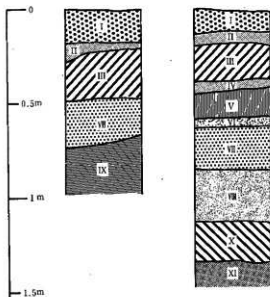


検出状況 東南より

れ、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認することとなった。

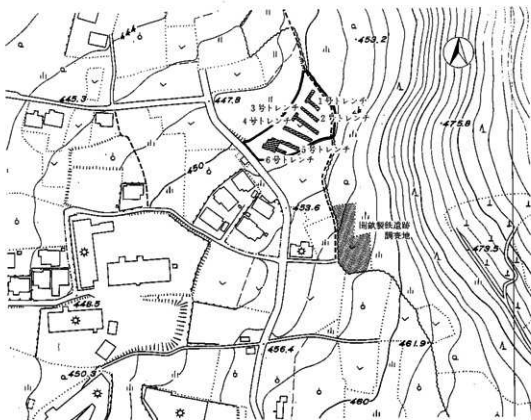
### 調査結果

開発対象地に合計6本のトレンチを入れ、遺構の存在の有無を確認した。遺物は6号トレンチV層中に土師器甕、VII層中より、鉄滓が検出されたのみで、遺構は検出されなかった。調査地は、隣接する中世末期に所属する開畝製鉄遺跡から見ると、北西斜面に位置し、前者の西斜面の立地と様相を異にしている。また、幾分か低地化しており、開畝製鉄遺跡の範囲は、当遺跡の南側に存在し、当遺跡内への範囲拡大が予想されたが、試掘調査によって、対象地内までは広がらないことが判明した。



- I におい黄褐色上 (10YR5/4) 水田床土
- II 明褐色粘質土 (10YR4/6) 水田遊動層
- III 黄褐色土 (10YR5/6) 水田床土
- IV 明褐色粘質上 (10YR4/6) 水田遊動層
- V におい黄褐色シルト (10YR5/3)
- VI におい黄褐色上 (10YR5/3)
- VII 暗褐色土 (10YR2/4)
- VIII 黒褐色上 (10YR2/3)
- IX 暗褐色土 (10YR3/3) グライ層
- X 暗褐色粘質土 (10YR3/4)
- XI 褐色土 (7.5YR4/6)

基土層模式図



試掘トレンチ設定図 (1:2500)

## 2 込山D遺跡

所在地 坂城町大字坂城字横  
町6422他

事業主体 坂城町 都市開発課

事業名 下水道整備事業

調査期間 平成6年7月9日

面積 24㎡

担当者 小平光一



遺跡近景 東より

### 遺跡の環境と経過

込山D遺跡は、坂城町大字坂城に所在し、標高402m内外を測る。日名沢川によって形成された扇状地の扇端部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の集落址に位置づけられ、隣接する込山E遺跡から縄文晩期の遮光器土偶が出土した。また、近世においては、北国街道の街道筋で、宿駅として栄え、坂木陣屋が置かれるなど重要な遺跡である。

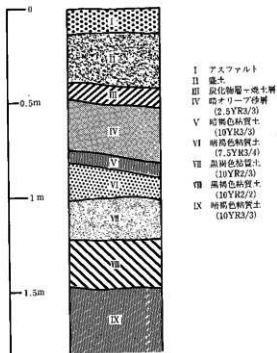


中世面検出状況

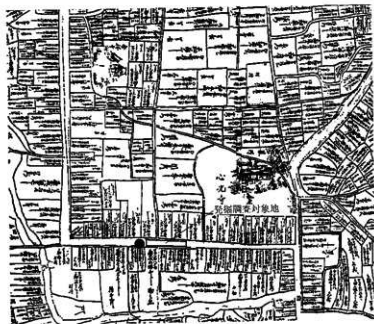
今回、坂城町都市開発課が行う下水道整備事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされ、調査範囲が狭かったこともあり、立会い調査的な試掘調査を行うこととなった。

### 調査結果

対象調査面積は、24㎡と非常に狭い状態ではあったが、弥生～中世までの複合遺跡と判明した。今回の調査によって、III層に炭化物・焼土が堆積しており、天明7（1786）年の大火の記述が『坂城町誌下巻』にあるため、同年の大火によるものとも思われるが、定かではない。IV層は氾濫砂層で、粒子が上層から下層にかけて徐々に細くなる傾向が看取される。V層は中世の遺物包含層で、鉄滓と焼土・炭化粒子を含む中世の包含層、VI層からはピットが検出され、柱痕跡が確認



基本土層模式図



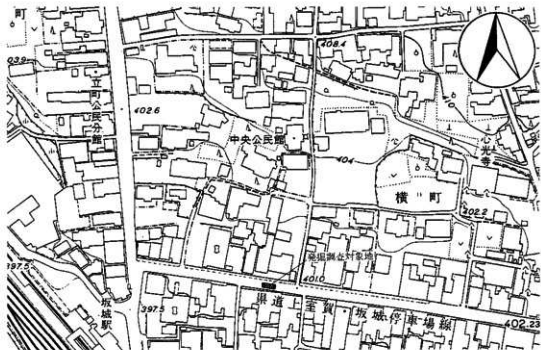
坂本宿図(安永7年)『坂城町誌中巻』

できている。調査範囲が少ないために明確にできないが、掘立柱建物址の存在が考えられ、内耳土器の出土によって、中世に所属時期を求めてもいように思われる。VIII層は奈良～平安時代の遺物包含層?で、IX層は弥生時代後期の遺物包含層と思われる。該期の小型甕が2点出土したにすぎず、遺構は確認できなかった。調査は、下水道整備のためであり、以下縄文時代の遺構については、調査できていない。

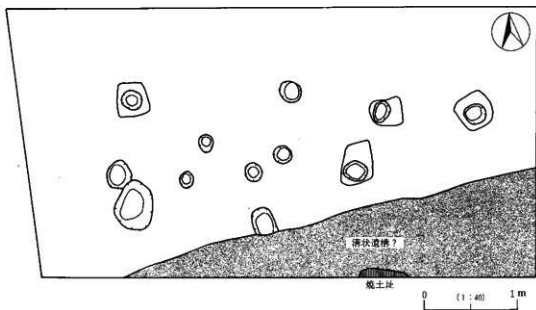
遺物では、縄文前～中期の深鉢片が僅かながら出土している。弥生時代の土器は、V・VI・VIII・IX層から後期箱清水式に所属すると思われる壺・甕・高杯が出土しているが、器形を伺いしれるものは少ない。他には古墳時代に

に所属するであろう土師器甕や平安時代の須恵器甕が僅かながら出土している。中世遺物では、V・VI層から多く出土して、内耳鍋やカワラケの出土がある。

今回の調査によって、遺跡周辺が宅地・商店化されていて、不明であった遺跡の状況が少しづつではあるが、明らかにされてきたと言える。



発掘調査位置図 (1 : 2500)



中世面遺構配置図



### 3 中之条遺跡群

所在地 坂城町大字中之条宇  
北河原1033-8他  
事業主体 坂城町 都市開発課  
事業名 都市計画街路事業  
調査期間 平成7年8月23～30日  
面積 約413㎡  
担当者 小平光一



遺跡近景 南東より

#### 遺跡の環境と経過

中之条遺跡群は、御堂川によって形成された扇状地の扇尖部に所在し、標高434m内外を測る。分布地図によると縄文～平安時代の集落地に位置づけられている。同遺跡群内では、宮上・寺浦・上町遺跡の調査が行われ、古墳～平安時代が主体の遺跡と判明している。

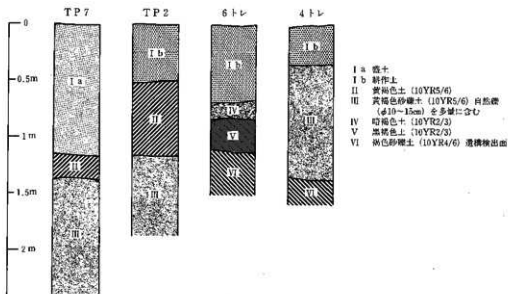
今回、都市計画街路事業による遺跡の破壊が余儀なくされ、試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認する事となった。



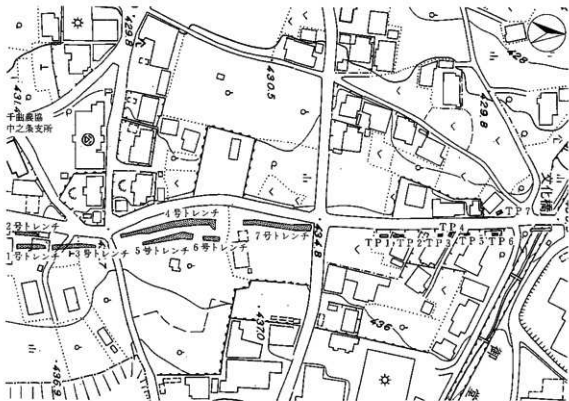
遺構検出状況 北より

#### 調査結果

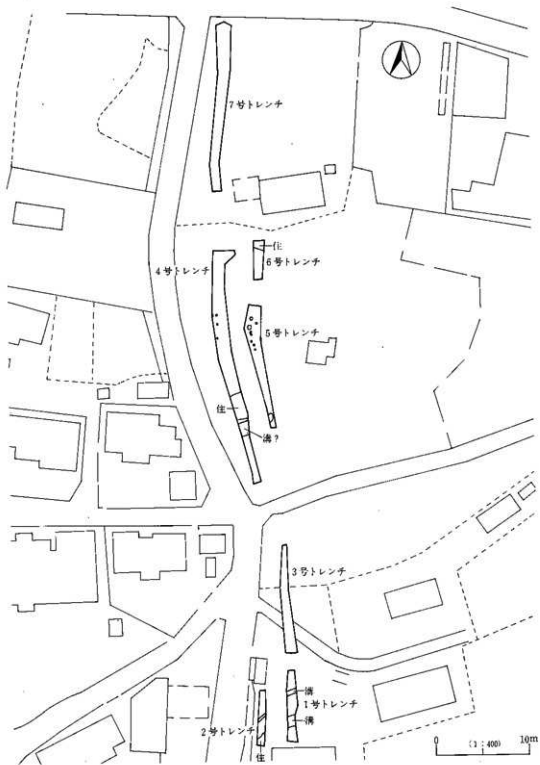
調査は、道路新設部分と道路拡張部分に分けられ、既製の道路に沿ったかたちにトレンチ及び試掘坑を設定し、遺構の存在を確認した。調査の結果開発対象地の北側は、現在の御堂川の流路となっていたことが堆積状況から判明し、遺構・遺物は存在しないことが明らかにされた。4号トレンチより竪穴住居址、ピットなどが検出され、古墳時代後期～平安時代に所属すると考えられる集落址が判明した。よって、古墳時代後期以降の集落址は、4号トレンチ以南に存在することが明らかとなり、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなった。



基本土層模式図



試掘トレンチ設定図 (1:2000)



道構配置図

## 4 村上氏館跡

所在地	坂城町大字坂城 1905-1他
事業主体	株式会社天田不動産
事業名	宅地造成事業
調査期間	平成8年2月5日～21日
面積	1882㎡(約616㎡)
担当者	助川朋広



遺跡近景 南東より

### 遺跡の環境と経過

村上氏館跡は、坂城町坂城に所在し、標高418m内外を測る日名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。中世に国人領主として活躍した村上義清の居城である葛尾城が、葛尾山頂に位置し、館跡が、本遺跡周辺である。葛尾城は天文22(1553)年武田信玄の攻略によって、落城した。昭和49年に村上氏城館跡として、範囲が未確定なまま県の史跡に指定された。



遺構検出状況 東より

今回、株式会社天田不動産による宅地造成事業が計画され、文化財の現状変更届が提出され、遺跡の状況が未確定であった事もあり、試掘調査を実施し、遺跡の範囲・性格を確認することになった。

### 調査結果

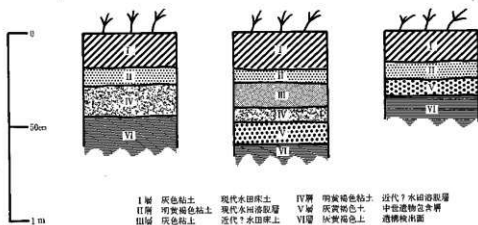
調査対象地に東西4本のトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。土層の堆積状況は、調査区内に水田層が1面のところと2面のところが存在しているが、基本的には大差ない状況であった。現在の満泉寺が所在しているところは調査対象地より、約1～2m下がっているため、検

出面が深い事が予想されたが、比較的浅いことが判明した。I・III層は水田層で、近代と現代の水田層にあたると思われる。V層は中世の遺物包含層で、遺構の検出はVI層で行った。

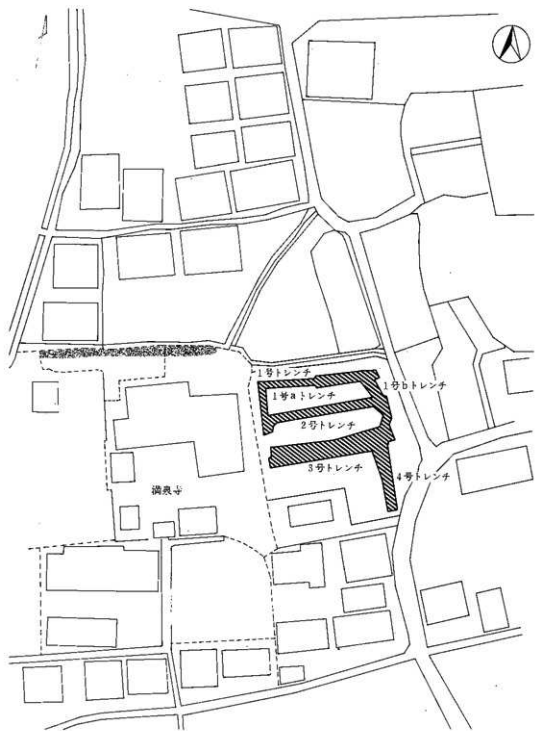
調査区からは、中世に所属するピットや上坑址が検出され、量的には少ないが、カワラケ、内耳土器なども検出された。しかしながら中世に所属はしても、ピットが並ぶものもあり、建物址とも思われるが判然としないため、村上氏の館跡に伴う遺構かどうかは明確でない。

村上氏館跡の主郭の位置については、依然不明なままである。満泉寺が村上氏の菩提寺として館跡内に建立されたとき、また満泉寺の北側に土塁の痕跡を止めており、調査対象地内に堀跡の検出が予想されていたが、検出することができず、トレンチ調査のため、部分的な調査になることは当然で、主郭が何処に存在するのか捉えられなかった。また、満泉寺の所在するところが、調査区より一段低く、平坦地を呈しているの、主郭が満泉寺の所在するところに位置したとも考えられる。しかし、1号aトレンチより、炭化物が集中して検出されたため、主郭については今後の課題となった。

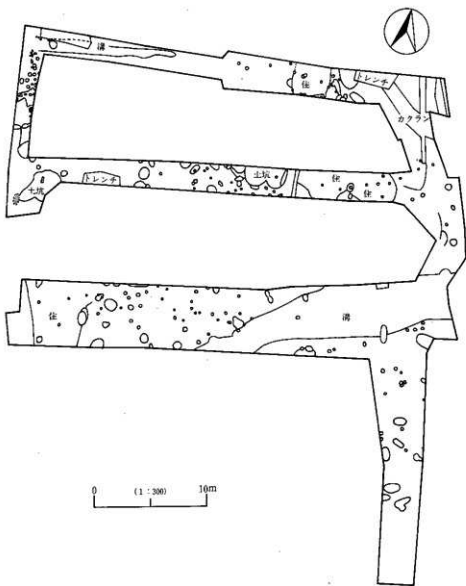
他の時代では、縄文前・中期の土器が出土し、遺構検出のみではあるが、同時期の住居址が存在する可能性も指摘できる。斐瑩製の磨製石斧も検出されている。弥生～古墳時代についても少量ながら出土遺物があり、調査対象地は縄文～中世における複合遺跡であることが判明した。



基本土層模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 1200)



遺構配置図



- |                     |                     |                     |                    |
|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 2 金井西遺跡群(縄~平)       | 2-1 金井遺跡(縄~平)       | 2-2 杜宮神跡(縄~平)       | 2-3 葦木下遺跡(縄~平)     |
| 3 金井東遺跡群(縄~平)       | 3-1 保地遺跡(縄~平)       | 5 社宮神跡(中世)          | 6 町根尾遺跡(縄~平)       |
| 7 北和古墳(古墳後期)        | 8 中之条遺跡群(縄~平)       | 8-1 寺通遺跡(縄~平)       | 8-2 上町遺跡(縄~平)      |
| 8 3 北町遺跡(張~平)       | 8-4 北浦遺跡(縄~平)       | 8-5 宮上遺跡(縄~平)       | 9 南条坂大古墳(古墳後期)     |
| 19 谷川古墳群(古墳後期)      | 10 1 入野地支那向古墳(古墳後期) | 10-2 入野尾支那向古墳(古墳後期) | 11 入野尾遺跡(古墳後期)     |
| 11 入野尾遺跡(古墳後期)      | 13 御原城跡(中世~近世)      | 14 御堂川古墳群山口支群(古墳後期) | 15 山崎遺跡(縄~平)       |
| 16 御堂川古墳群山崎支群(古墳後期) | 17 御堂川古墳群南山支群(古墳後期) | 17-1 前山1号墳(古墳後期)    | 17-2 前山2号墳(古墳後期)   |
| 17-3 前山3号墳(古墳後期)    | 17-4 前山4号墳(古墳後期)    | 17-5 前山5号墳(古墳後期)    | 17-6 前山6号墳(古墳後期)   |
| 17-7 前山7号墳(古墳後期)    | 17-8 前山8号墳(古墳後期)    | 17-9 前山9号墳(古墳後期)    | 17-10 前山10号墳(古墳後期) |
| 19 御堂川古墳群山崎支群(古墳後期) | 20 雲鏡堂遺跡(縄~平)       | 21 開敷遺跡(張~平)        | 22 人塚古墳(古墳後期)      |
| 23 四ノ屋遺跡群(縄~平)      | 24 茂久保遺跡(古~平)       | 25 入田遺跡(奈~平)        | 26 塚内古墳(古墳後期)      |
| 27 金北羅山遺跡(縄~平)      | 28 篠平経塚(中世)         | 29 岡の原塚跡(平安)        | 30 込山遺跡群(縄~平)      |
| 30-1 込山A遺跡(縄~平)     | 30-2 込山B遺跡(縄~平)     | 30-3 込山C遺跡(縄~平)     | 30-4 込山D遺跡(縄~平)    |
| 30-5 込山E遺跡(縄~平)     | 31 日名沢遺跡群(張~平)      | 31-1 日名沢遺跡(張~平)     | 31-2 丸山遺跡(張~平)     |
| 32 七井ノ人塚跡(奈~平)      | 33 平林遺跡(縄文)         | 34 境外塚跡(平安)         | 37 金北羅山古墳(古墳後期)    |
| 38 村上氏館跡(中世)        | 43 栗田高跡(奈良)         | 44 鷲尾城跡(中世)         | 51 狐塚城跡(中世)        |
| 54 込山寺跡(平安)         | 55 観音平跡(中世)         | 56 栗田小館跡(中世)        | 57 塚の原遺跡(奈~平)      |
| 58 南月名遺跡(張~平)       | 59 鷲尾城根小塚跡(中世)      | 60 新塚跡(中世)          | 61 坂木代官所跡(近世)      |
| 62 川町遺跡群(古~平)       | 63 御所沢城跡(中世)        | 65 中之条石切場跡(近世)      | 66 砥沢古墳(古墳後期)      |
| 67 中之条代官所跡(中世)      | 69 観音坂城跡(中世)        | 78 上五明桑里水田址(平~近)    | 85 御堂原遺跡(縄~平)      |

町内遺跡発掘調査位置図



## 坂城町の埋蔵文化財発掘調査報告書

『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告』	1977
『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告』	1978
『東裏遺跡』	1984
『中之条遺跡群 宮上遺跡II』(概報)	1993
『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集『南条遺跡群 東裏遺跡II・青木下遺跡』	1994
第2集『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集『南条遺跡群 塚田遺跡II』	1995
第5集『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集『中之条遺跡群 寺浦遺跡II』	1996
第7集『中之条遺跡群 上町遺跡II』	1996
第8集『上五明条里水田址』	1996
第9集『町内遺跡発掘調査報告書 1995』	1996

---

長野県埴科郡坂城町

## 町内遺跡発掘調査報告書 1995

1996年3月29日

編集者 坂城町教育委員会

発行者

〒389-06 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468番地  
TEL (0268) 82-2069

印刷所 ほおずき書籍株式会社

---

